

いにしえのロマンを語る山「大和三山」

奈良森林管理事務所

大和三山は奈良盆地の南部に位置し、

畝傍山（一九九メートル）・香久山（一五二メートル）・耳成山（一三九メートル）の三山を総称したもので、万葉の昔から詩歌に詠まれるなど詩情豊かな山として多くの人々に親しまれると共に、三山の頂点を結ぶと三角形となり、その中心部に藤原宮跡が広がる位置関係にあります、その昔「美しい



三輪山から望む大和三山、（写真左から香久山、畝傍山、耳成山）

昔「美しい畝傍山を巡って耳成山と香久山が恋い争いをしたと言われる。」伝説等とも相まり、いにしえのロマンをかき立てる存在となっています。

藤原宮跡から見た畝傍山



万葉の時代（五九三〜七五九年）には、信仰の山として崇められていたものと考えられますが、都が京都（平安京）へ移ると次第に信仰としての存在感が薄れ、「里山」、「入会山」程度の認識となっていたものと思われまふ。三山の一部には地域信仰と結びついた整備は行われていたようですが、目立つた整備は行われていなかったようです。

しかし、明治に入り二二年には、「畝傍山」・翌二三年には、「香久山」・「耳成山」が御料地となり、風致目的の施業が中心に行われ、全山を緑化するため整備が図られました。その後、昭和二二年「林政統一」により国有林となり現在

に至っています。

万葉集の中で詠まれた歌の一部に「香久山は畝傍ををしと耳成と相争ひき神代より……」というのがあります。この歌には説が二つあり、「をし」を「雄々し」と読むか、「を愛（を）し」と読むかで、三山にまつわる伝説の内容が正反対になってしまいうそです。いずれも、この詩の中心をなす畝傍山のことを「雄々し」と読めば男性、「を愛（を）し」と読めば女性となり内容が違って来るといふものです。どちらをとっても、「三角関係」となることには変わりないようですが……。



藤原宮跡から見た香久山

このように大和三山は、三山が独自に持つ伝説・神話及びそれにまつわる古代史を彩る有名な人の人間関係などに思いをはせることが出来る山である

畝傍山から見た耳成山



す。

平成一七年七月一四日には、奈良県で一番目の「国の名勝指定」を受け、益々存在意義がまじってきたところです。

大和三山は、今後も、いにしえのロマンを感じ、自分の足で巡りながら同時に心の旅も満喫出来る場所として、多くの方々がこられることと思います。電車の駅からも近いので、一度お越しになってはいかがでしょう。

り、日本文化のふるさととして、将来に向けて風致的な維持助長をしていかなければならぬ山々で

千六三〇・八〇三五
奈良市赤膚町一四三二二〇
TEL 〇五〇・三一六〇・六一五〇
FAX 〇七四一・五三一・一五〇二
<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/nara>